

◆その後の動向

2006年6月初頭、紹興で第2回文化遺産保護と持続可能な発展国際会議が開催されました。20カ国あまりの国から150名の専門家が集まり、都市計画も含めた様々な文化遺産保護の検討が行われ、最後に、「紹興宣言」が採択されました。

この会議で、国家文物局の単局長が都市建設における文化財保護の4つの解決すべき問題点を列挙しました。第一に、どこも似通った変わり映えしない大規模建築群、第二に建築による古い街道や町並みの破壊、第三に民族文化からかけ離れた欧風建築、第四に文化遺産の商業化・人工化などです。

こういった新しい認識は、中国の新しい街づくりの中に少しずつ取り入れられるようになってきました。北京では2005年に55箇所の旧都市部地域改造計画が白紙に戻されましたが、第11次5カ年計画の中で伝統の四合院をどう保存するかが大きな問題になっています。毎年600本の路地が失われつつある北京、四合院の数は4000をきりました。まさに時間との戦いになっています。

また、歴史に富む大連でも、由緒ある建築物が次々と取り壊されていくことに危機感を持ち、2002年には<大連市重点保護建築補修管理方法>が打ち出され、今後更に強化されようとしています。

最近中国へ行くと、どこの国かと思うようなきれいな洋風のマンションや住宅街によくお目にかかります。確かに伝統的な建物は、住居としての利便性に問題がある場合も少なくありません。しかし、中国の伝統的な街並みを残して欲しいと思うのは、多くの人に共通した願望と言えましょう。積極的に問題を解決し、保存を進めてもらいたいものです。